

# 神戸新聞

発行所  
**神戸新聞社**  
 郵便番号 650-8571  
 神戸市中央区東川崎町 1-5-7  
<http://www.kobe-np.co.jp/>  
 電話 (078) 362局  
 社会部 7040 映像写真部 7047  
 経済部 7094 販売局 7066  
 運動部 7095 営業局 7081  
 文化 7044 地域 7086  
 生活部 7045 活動局  
 ご意見ご質問は読者センター  
**078・362・7056**  
 (月～土 10:00～17:30)

浮世あられ  
 神戸元町 **花見屋**  
 神戸市中央区元町通2丁目6番6号  
 TEL (078) 333-2211  
 FAX (078) 333-2211  
 2106番6号  
 9876号  
 8776号  
 883  
<http://hanamiya.co.jp>

購読のお申し込み  
**0120・16・8349**  
 月～土 9:30～19:00  
 日・祝 9:30～17:30

- きょうの紙面
- ② 国会冒頭の政倫審出席要請
  - ③ 主要企業、既卒と新卒区別せず
  - ⑨ 日航、更生法申請から1年
  - ④ 新幹線トラブルは処理能力超過
  - ②⑤ 番組転送は著作権侵害―最高裁

青空主義 ⑬  
 フランスの  
 ガトー・バスク



- 特集 ④  
 読者の報道写真コンテスト
- 国際 ⑦  
 イラク警察関係者  
 狙いテロ42人死亡
- ペット ⑩  
 高齢犬の寝たきり  
 予防
- 放送演芸 ⑮  
 横沢彪さんをしのぶ
- 商況 ⑦⑧⑩  
**BS・ラジオ** ⑬  
**囲碁・将棋** ⑮  
**小説** 親鸞・激動篇②②

社説 ⑤  
 経団連指針  
 チュニジア

日の出みりん  
<http://www.hinode-mirin.co.jp/>

きょうの天気

兵庫南部	西の風	波高1.5m
兵庫北部	西の風	波高2.5m

6時 9時 12時 15時 18時 21時 24時 気温 8.2

冬型の気圧配置が  
 兵庫の北部では雪が  
 降りそうです。しょう。

## 抗ホルモン剤を投与へ

### 思春期の体の変化抑止

#### 性同一性障害の小6男児

大阪医科大ジェンタークリニック＝大阪府高槻市＝は18日、心と体の性が異なる性同一性障害（GID）のため、女児として小学校に通学する兵庫県播磨地方の6年生の男児（12）に対し、中学校進学を前に「抗ホルモン剤」を定期的に投与し、思春期の体の変化を一時的に止める治療を始めることを決めた。GID学会理事長の中塚幹也岡山大学教授によると、医療機関が小児GID患者に同剤を投与するのは全国初という。

#### 大阪医科大 小児で全国初

男児とその保護者はこの日、大阪医科大付属病院で副作用などの説明を聞いた上で同意、2月にも治療は始まる。精神科と小児科が協力して月1回注射する予定で、健康

保険の適用外のため費用は1回約3万5千円と前と比べて男性ホルモンの濃度が倍増したため、泌尿器科の協力を得て、男女ごとの特徴が著しくなる「第2次性徴」と、その上位組織の大学倫理委員会で方針が承認された。

康准教授は、心の性と逆の急な身体変化で生じる苦痛を和らげるには抗ホルモン剤の投与が有効と判断。昨年10月から学内の性同一性障害症例検討会議で審議し、同会議

男児は地元教育委員会の配慮で、小学校の出席簿やトイレなどは女児扱いで、水泳には女児用水着で参加してきた。教委はこの春進学する中学校でも女子として受け入れることを決めているが、男児らの話では、高学年になると成長に伴うトラブルも起き始めていると、低年齢で第2次性徴が始まる「思春期早発症」でも使われているが、重篤な副作用の報告は少ない。

同クリニックによると、投与する抗ホルモン剤「LHRHアナログ」は、強制的に男性ホルモン

は、女子高校生＝当時（16）に岡山大が投与し

抗ホルモン剤ホルモンの働きを妨げる効果のある薬剤。今回投与される「LHRHアナログ」は、脳にある内分泌器官で精巣や卵巣に指令を与える「下垂体」に作用し、性ホルモンの生成や分泌を抑えることができる。その結果、男性ではひげが濃くなったり声変わりしたりせず、女性では月経や乳房の発育が止まるなど、第2次性徴も進まない。

た報告例はあるが、中学生以下では例がないという。女子高校生は自殺未遂を繰り返していたという。

(電見真一郎)



性同一性障害の男児に対し、抗ホルモン剤治療を始めることを決めた大阪医科大付属病院＝18日午前、大阪府高槻市（撮影・等原次郎）

兵庫県内 **消防水利**

阪神・淡路 大震災後 水道

兵庫県の消防水利は、約13万7004力所で、震災前（1994年4月）の8万6081力所から

就職内定率最悪 8.8%

の割合を調査した。大学生の男子は、前年同期比で2.9割減の70.1%、女子は5.8割減の1.4%。文科ともに過去最低。全国を六つに分けた地域別では、北海道・東北69%、前年同期比0.4%



# 性同一性障害男児に抗ホルモン剤



抗ホルモン治療の説明を受けるため、病院に向かう男児（右）と母親＝18日午前、大阪府高槻市（撮影・笠原次郎）

# “発育抑制”重ねた議論

## 男児「男の子よりいい」

「うれしい。注射しても女の子になれないこと  
は分かっているけど、男の子になるよりいい」。

兵庫県播磨地方の小学6年生の男児12に、思春期の体の変化を一時的に止める治療を始めることが決まった。母親とともに同意書に署名した男児は、ほっとしたようにほほ笑んだ。（1面参照）

母親と歩く体は小さめ。思春期の患者は、体く、肩までの髪やスカークが心と反対の性に急速にト姿は「女の子」。成長途上の健康体に抗ホルモン剤を投与するのは、性同一性障害（GID）が世界保健機関（WHO）も認める疾病であるた

しかし結果的に子ども  
の発育を薬で左右する治  
療には、男児が通院する

小児性同一性障害（GID）患者に対し、抗ホルモン剤投与で第2次性徴を抑える治療。専門医にとっても未知の領域だが、重い副作用が起きる可能性は低く、投与をや

大阪医科大学内でも慎重な声があり、議論を重ねられた。男児の主治医である康純・精神科准教授は「死にたいと言っている子どもだけに施す緊急避難的な治療にはしたくなかった。きちんとした診断に基づいた標準的治療として始めたかった」と、これまでを振り返る。

この日の診察では、男児自身が読めるよう、すべての漢字にふりがなを付けた説明書が渡された。出現頻度の低いもので、25の副作用について、「心筋梗塞（心臓に血液が流れにくくなって苦しくなります）」など易しい言葉で書かれていた。

日本では、ホルモン療法が18歳、生殖器を外科的に変える性別適合手術が

めればホルモン分泌が戻るとされる。投与される抗ホルモン剤「LHRHアナログ」は、思春期早発症の小児患者にも使われてきた。1994年から製造販売

20歳以上に限定されている。今回始まる投薬からホルモン療法に移行すれば、心の性に合わせたより自然な体の変化が見込まれ、外見への効果が従来より高いとされる。

それでも康准教授は「第2次性徴の始まりを悲しまなければならぬ境遇を想像すべき」と説く。抗ホルモン剤を投与しても胸はふくらまない。周囲の「同性」との違いに悩むのは変わらないうと指摘する。

日本精神神経学会によると、GIDで診察を受けた人は2007年末現在、延べ7177人。専門家によると、その多くは幼少期から性別に違和感を持っていたとみられる。（霍見真一郎）

国内では未成年でGIDと診断された場合、体の治療に慎重な姿勢がとられてきた。小児GIDの診断は難しいとされ、すべての患者が大人になるまで性別の違和感を持

ち続けるとは限らないから。塚田攻・埼玉医科大学精神神経科講師は「第2次性徴期の体や心の変化のきっかけは、自分の存在を認めるための重要な過程。それを経験しないことは、精神の成熟にとって負の要素になるのでは」とみる。

専門医によると、思春期早発症で抗ホルモン剤を投与された男児は女兒に比べ圧倒的に少なく、精果への影響は未知の部分があるという。しかし、ホルモン療法や性別適合手術に比べ、抗ホルモン剤の投与は少なくとも「後戻りできる」余地が残されている。

GID患者の受診が多い「はりまメンタルクリニック」（東京）の針間克己院長は「症状を見極め、的確な診断をするための保留期間になる。治療は小児の診療体制がしっかりしていることが条件」と指摘。GID学会

理事長の中塚幹也岡山大学教授は「将来どう生きていくのか、自ら判断を下せる年齢に達するまで、考える時間ができる」と話す。（鎌田倫子）

# 大人までの猶予期間に